

7月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 舘野 健一

行った主な活動

雨よけビニール修理作業

7月は、房の生育を良くし、最終的な品質を高めるために摘粒作業を行った。摘粒は、房内の粒数を適正に調整することで、粒の肥大や着色の向上、房の形の改善を図る重要な作業です。粒が過密な状態であると、粒の肥大が不十分となり、また病害の発生リスクも高まるため、一房ごとに粒の大きさやバランスを見ながら、丁寧に摘み落とした。

作業の際は、樹の生育状況や新梢の伸長具合、葉の色や枚数なども確認し、樹勢の強弱を把握し、樹の負担が偏らないように意識した。品種や樹ごとに房の大きさや粒のつき方に違いがあるため、目標とする房の形や粒数をイメージしながら、自然な形で美しい房となるよう心掛けて作業を進めた。



笠掛け作業

摘粒作業の後、ぶどうの房を保護するために袋掛け作業を行った。袋掛けは、病虫害の被害を防ぐことに加え、日焼けや雨による裂果・汚れの軽減、美しい果皮の保持につながる大切な作業である。

品種ごとの袋の種類や掛け方を確認しながら、一房ずつ丁寧に袋を掛けた。袋が破れていないか、雨や風で外れないようしっかりと取り付けられているかを確認し、隙間までしわが寄らないよう整えながら作業を進めた。暑い中での作業となったが、袋掛けの仕上がりは収穫時の見た目や品質に大きく影響するため、最後まで気を抜かずに取り組んだ。



7月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 舘野 健一

活動を行った感想など

7月は、摘粒・袋掛けという収量と品質に直結する作業が集中する、非常に重要な月であると改めて実感した。

一房ごとに粒の生育や付き方が異なるため、判断を丁寧に行う必要があり、想像以上に時間と労力がかかった。摘粒では、どの程度まで落とすかの見極めが難しく、迷いながら作業する場面も多くあった。また、樹や枝の場所によって房の大きさや生育の差があるため、作業の効率や正確性をさらに高めていく必要があると感じた。

袋掛けでは、手際よく進めることを意識したが、取り付けの角度や留め方にばらつきが出てしまうこともあり、見直しが必要であった。加えて、日中の気温が高くなる時間帯の作業は体力的に負担が大きく、熱中症対策やこまめな水分・塩分補給、休憩の取り方が重要だと実感した。今後も体調管理に十分注意しながら、作業を進めていきたい。

今後の目標など

今後は、引き続き畑の巡回を丁寧に行い、袋掛けの抜けや外れがないかを確認するとともに、病害虫の防除や樹勢の調整、かん水管理など、収穫に向けた管理作業を強化していく。特に、べと病・黒とう病・ハダニなどの病害虫については、発生の早期発見と適切な防除を心掛け、被害の拡大を防ぎたい。

また、糖度の向上や粒の肥大、着色の促進につながるよう、日照や肥培管理、葉の管理など細かな作業を意識し、栄養のバランスを保ちながら高品質な果実づくりを目指すことを目標にする。

さらに、作業のタイミングや方法について先輩方の知見を積極的に学び、経験を積むことで、判断力と技術を高めていきたい。

自信を持って出荷できる美味しいぶどうをつくることを目標に、今後も一つ一つの作業を丁寧に、責任を持って取り組んでいきたい。

